

# ななむら

第128号

発行：照来地区公民館

責任者：館長

☎ 92-1738

令和8年2月1日現在

世帯数：519世帯

人口：男 605人

女 700人

計 1,305人

## 照来地区卓球大会が開催されました!

2月11日(水) スポーツクラブ21照来主催の「第23回照来地区卓球大会」が健康公園体育館で開催されました。

今年は、昨年より1チーム多い12チームの参加がありました。小学生から70歳代の方まで幅広く参加されていましたが、少子高齢化のせいなのか、若干年齢層が上がっているように思えました。

私は目が悪いこともあり卓球はしないので、本部で同年代の仲間と雑談をしながら観戦していました。「毎年のことだけど、レベルの高い選手が多いなあ」という話から「我々が小学生の頃は廊下で下敷きを使ってピンポンをしていたなあ!」「ようあんな下敷きでできたなあ」と気が付けば昔話に花が咲いていました。歳をとったのか昔話をよくするようになりました。

話しをしながら、フツと丹波篠山には風呂桶を使った「桶ツト卓球」が頭に浮かびました。全国大会もありますし、来年は世界大会も開催するくらい有名になっています。それなら「下敷き卓球」もあっていいのではと思ってしまいました。

来年は、余興で行なっても面白いのでは・・・。



### 結果

- 優勝 TNDチキータ
- 準優勝 桐岡エース
- 第三位 飯野ケンタッキー
- 第四位 飯野モス
- 敗者戦 飯野マック

## 『1.17のつどい』に参加しました!

新温泉町社会福祉協議会のお世話で、「1.17のつどい」に参加して来ました。まず「1.17のつどい」が行われている「東遊園地」に行き、竹灯笼に火のついたローソクを浮かべ黙祷をささげました。

その後「人と防災未来センター」へ移動。そこの慰霊のモニュメント前でも追悼行事が行われており、ちょうど～しあわせ運べるように～の献曲を灘の浜小学校の児童が歌っていました。この歌は、震災から約2週間後に当時神戸市立吾妻小学校(現在廃校)に勤務されていた臼井真先生が作詞・作曲されたもので、復興の歌として全国各地で歌われています。私は、今回このつどいへの参加を決めた一つの理由がこの歌を聴きたいとの思いがありました。ところが、ちょっとした時間のズレから途中からしか聴けませんでした。大変心打たれる歌ですよ!



神戸市役所の展望ロビーから撮影

次に「人と防災未来センター」の中へ。震災当時の映像やまち並みを再現したジオラマ等色々な展示を見学しました。見学途中、語り部の方が「介護保険制度ができたのはこの震災がきっかけです。」と言われたのが頭に残っています。

## ミラノ・コルティナ五輪

## ブルーヴォ!(素晴らしい!)

公民館だよりの原稿提出が2月20日(金)のため、オリンピックの日本選手の成績は19日までの結果しかわかりませんが、連日のメダルラッシュに感動しています。メダルを獲得までの感動のエピソードが毎日のように放送されていましたが、特にフィギアスケートペアで大逆転の金メダルを獲得した「りくりゅうペア」の諦めない気持ちには感動しました。また、戦った選手同士がお互いを称え合う姿は本当に素晴らしいことだと思います。感動を与えてくれてグッツイエ(ありがとう)です。

## 新温泉町ポッチャ交流大会

近年、ポッチャがちょっとしたブームになっていますが、照来でも昨年11月にスポーツクラブ21照来主催の「第1回ポッチャ大会」が開催されています。

この度、町教育委員会より「新温泉町ポッチャ交流大会」の案内がありましたので、お知らせします。

日時：令和8年3月20日（金）午前8時20分～

場所：浜坂体育センター体育館

参加費：無料

申込期日：3月6日（金）午後5時まで

申込先：町教育委員会生涯教育課 スポーツ推進係

☎82-5629

## 3月の事業予定

★メディカルヨガ教室

日時：3月17日（火）19:30～

★野菜づくり講座

日時：3月25日（水）13:30～

★照来地区公民館推進委員会

日時：3月23日（月）

19:00～

※場所はいずれも

照来地区公民館



## 照来の歴史（82）『出稼ぎ』

出稼ぎについては、「統計からみた温泉町の農業」や「温泉町史」「温泉町郷土読本」に載っています。

### <出稼ぎの風習がいつ頃から始まったのか>

どの史料にも「古い資料や文献が乏しく明らかではないが、江戸時代後期から明治初期ではないかと思われる。」と記されています。当時の照来では、農業で生計を立て生活する家が多く、雪の降る冬期間は収入源がなく、ほとんどの家が出稼ぎに出ていました。照来地区の出稼ぎ数をもっとも多かったのは、昭和4年で675人ですが、現在では非常に少なくなっています。

### <出稼ぎ先は>

和歌山県（高野）、大阪府（千早、河内）方面に天然凍豆腐製造業に従事するため出掛けるようになったのが始まりのようです。当時の出稼ぎ者は、バスケット（柳製の籠）を背負い、自宅から現在の山陰線やなせ付近まで一泊二日を要して山道を歩き、そこから汽車を利用したようです。

しかし、このようにして続けられた出稼ぎも時代の変遷とともに機械化され、昭和10年頃から天然凍豆腐が冷凍機の斬増により年中製造可能になり、雇用関係においても恒久固定化し、交通機関の発達によって出稼ぎ地域も広範囲に亘るようになりました。

終戦後（昭和20年）になると、年々食糧事情の好転と生活水準の上昇に伴い、酒類の製造が活発化して年々隆昌を極めてきました。過去において但馬人、特に美方郡の出稼ぎ者がよく重労働に堪え、温厚、従順な気風が各方面に高く評価され、酒造業への雇用が年々増大していきます。この頃から出稼ぎといえば酒屋といわれるようになりました。

### <出稼ぎに行く人は>

明治初期から昭和15年頃まで、村内の青壮年男女は病弱者や家庭事情のある者以外はすべて出稼ぎに行くことが当然ようになっていました。男子は天然凍豆腐製造業を主体に、女子は、小学校卒業後、わずか13～14歳で京阪神の個人家庭に女中奉公として出稼ぎし、嫁入りするまで繰り返し続けられ結婚によって家庭に落ち着くことが一般的でした。

### <留守を守る人たちは>

留守宅に残された高齢者、婦人のうち、男子は農作業用のワラジ、草履、藁靴（フカグツ）、ミノ、フゴ、縄等の自給自足品の作成と除雪などの住宅維持管理作業をし、女子は綿糸を購入して、或いは自家用繭で生糸をつぐんで家庭の衣類づくりのための機織りをする傍ら、ウミソ（麻）をつぐんで、ささやかな現金収入を得ることに専念し、出稼ぎ先における労苦を偲びつつ夜を徹して、もくもくと働き続けたとあります。その結果として但馬人特有のねばり強さと真面目さの性格が培われたものだと言われています。

右の写真は、昭和61年3月発行の「温泉町の民俗資料」に掲載されている「ふごづくり」です。

